

田浦地域小中学校教育環境整備に関する意見等

(令和5年3月29日現在 5件3名の方からご意見等をいただいています。)

1 令和4年9月10日(土)

【意見】

- ・田浦6丁目や港が丘1丁目から長浦小学校までは遠すぎると思います。小学校1年生の児童が重いランドセルを背負ってトンネルを通ったり山を上り下りしたりすることを考えただけでも涙が出てきます。せめて、田浦4、5、6丁目と港が丘1丁目は船越小学校と長浦小学校を選べるようにしてほしいです。
- ・船越小学校に行けるよう教育委員会にお願いしたが、前例がないとの事で却下されました。境目に住んでいて指定校よりも近くに学校がある場合は、どちらか選べるようにしていただきたいです。
- ・今仕事をしなくても船越小学校を選べるなら、すぐにでも仕事を辞めて妊活を始めたいですし、学区の事でこんなに悩んでいる人もいることを知ってほしいです。

【回答】

- ・小学校の指定変更については、承認基準が決められています。保護者が就労している場合に、自宅以外の放課後児童クラブ(学童クラブ)や親族等の家に帰宅する場合には、その帰宅先の学区の学校へ指定変更をすることは可能です。

現在、保護者のお仕事をされているとのことですので、お子さんが入学後に帰宅(預け先)が船越小学校の学区内であれば、船越小学校への指定変更が可能になります。

手続きに必要なものは、保護者(ご両親)の就労証明書と放課後児童クラブ(学童クラブ)や預け先の保育証明書になります。

手続きを行う時期は、入学する前年の12月に就学通知書が届いた後に、お手続きをとっていただくようお願いいたします。

- ・田浦地域の通学区域(学区)に関しましては、通学面や各町内会・自治会の範囲等を踏まえつつ、田浦地域の皆さまからご意見を伺いながら、検討を進めてまいります。

2 令和4年10月2日（日）

【質問】

- ・子育てと仕事の両立ができると思ってこの場所に家を建てましたが、教育環境整備計画の存在を知り、とても不安な気持ちになっています。
- ・協議会ニュースを回覧で見ると統廃合のメリットばかりが強調されているように感じます。
- ・土砂災害警戒地域や人口減少については以前から分かっていたことですし、最初から分かっていたら田浦に家は建てていません。5年という期間はあまりに乱暴だと感じましたし、毎晩不安で眠れない日々を過ごしています。
- ・子どもを田浦小学校に通わせることを前提に、この地に家を建てた方が他にもいると聞いています。会議に参加しているメンバーだけで全てを決められては困りますので、今後、我々のような一住民の思いや意見を行政の方（特に市長）に直接生で聞いていただける場を設定していただくことは難しいでしょうか。

【回答】

（田浦小学校について）

田浦小学校については、建築から70年近く経過している校舎もあり老朽化が著しく進んでいることから、児童の安全面を踏まえても早急な対応が必要な状況です。

また、教育環境整備の検討に当たって統廃合のメリットのみを強調しているわけではございません。

実際に田浦小学校を廃止するのではなく、全国的に進む少子化を踏まえ「小さな学校」を設置する案をご提案いただきました。

この案に基づいて検討した結果、田浦小学校の敷地の一部が土砂災害警戒区域内にあり、防災対策を行うことで運動場のスペースの確保が難しくなることと、学校までの道路の幅員が建築基準法上の基準を満たさないことで学校を建て替える行為が難しくなること等の理由から、田浦小学校の建て替えは困難であると考えています。

こうした状況から、本市教育委員会事務局では、1つの案として田浦小学校区を長浦小学校区に再編することを協議会にてご提案しています。

なお、本案に関しましては、通学距離の長距離化に加え、各学校、田浦地域とその周辺地域の歴史などの地域性、学校が廃止されることによる心情的なサポートなど検討に当たって考慮が必要な事項があることも認識しております。

今後も引き続き、地域の皆さまからのご意見を募集しております。お寄せいただいたご意見につきましては、方策の検討に生かしてまいります。

(説明会について)

現在、協議会の概要や検討状況について、協議会ニュースを作成し、保護者への配布及び町内回覧により周知を行い、その中でご意見があれば教育委員会へお寄せいただく形を採用しています。当面はこのような対応をしていきますが、説明会につきましては、今後、必要に応じて開催を検討していきたいと考えています。

3 令和4年10月12日(水)

【質問】

- ・土砂災害警戒地域や人口減少については以前から分かっていたことですし、最初から分かっていたら田浦に家は建てていません。5年という期間はあまりに乱暴だと感じましたし、毎晩不安で眠れない日々を過ごしています。
- ・子どもを田浦小学校に通わせることを前提に、この地に家を建てた方が他にもいると聞いています。 ※2の質問文から一部抜粋。

- ・この部分に対するご回答をいただければと思います。なぜ急な話になっているのでしょうか。個人的にはせめて15年は待ってほしいと思います。

【回答】

教育環境整備の取り組みについてご理解いただくために、まず、本市の小中学校を取り巻く現状についてご説明します。

現在、本市において人口の減少及び少子化が進んでいる中で、小中学校数はピーク時からほとんど変化していないため、市内小中学校において、著しく小規模化が進んでいる状況があります。

同時に、本市の学校施設は児童・生徒の増加を背景に昭和50年代に集中して建設されました。

そのため、令和２年度時点で全体の約２割の施設が建築後５０年以上経過しており、建て替えや小中学校の再編を検討しなければならない時期に来ています。

これに加えて、令和２年３月には、田浦地域を対象に、神奈川県による土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の指定が行われ、田浦小学校の敷地の一部が当該区域に含まれることとなりました。

また、令和元年度から令和３年度にかけて、本市は「学校施設の長寿命化計画」、「FM戦略プラン」、「教育振興基本計画」の策定を行いました。

これにより、老朽化が進む学校施設について計画的な維持・保全を行うとともに、公共施設の在り方の見直しも踏まえつつ、本市における教育に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る方針及び体制を整えてきました。

これを期に、本市は、小中学校の小規模化の対応だけではなく、学校施設の老朽化をはじめとした諸課題も併せて全市的な小中学校の教育環境整備を進めることを目的とし、令和４年３月に「横須賀市教育環境整備計画」を策定しました。

田浦小学校については、平成２９年度から全学年１学級と小規模の状況が続いており、学校施設についても市内で最も古く、建築後７０年近く経過し、施設の老朽化が著しく進んでいる現状がありますが、敷地が狭いため、その場での建て替えが困難であると考えています。

また、小規模化や学校施設の老朽化等の課題は、田浦地域だけではなく、市内全地域の小中学校においても同様であり、全市的に、順次、検討を行っていかねばならない状況があります。

ご指摘の「５年」が何を指すものか分かりかねますが、全市的な状況も踏まえて、田浦地域の小中学校における諸課題の対応については、先延ばしにすることはできない状況であると考えています。

なお、田浦小学校に通わせる前提で住宅を購入された方もいらっしゃると思いますが、田浦地域における子どもたちの小中学校の教育環境を整備する観点から、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

4 令和4年10月28日（金）

【意見】

今回の計画で一番ダメージを受けるのは、我々のような「これから田浦小に子どもを通わせるつもりでいる」方々ですので、ぜひ我々の声を生で聴いていただく機会を設定してください。

5 令和5年1月27日（金）

【意見】

- ・通学路が最大3kmとなり、子どもの脚力で毎日往復2時間も通学させるのは酷ですし、近年の酷暑から命の危険も考えられます。親として子どもに徒歩で通学させることはさせたくありませんし、反対します。
- ・田浦駅発着のスクールバスあるいは公共バスを利用するのであれば、その分の交通費を市に補助していただきたいです。
- ・住む地域によっては、長浦小学校あるいは船越小学校が近いこともあると思いますので、田浦地区全体を長浦小学校に編入するのではなく、どちらか選択制にしてはいかがでしょうか。